釧路を選んだ理由

釧路赤十字病院
鱧永（はぶなが）　恵（けい）

大阪出身、慶應義塾大学医学部卒、釧路赤十字病院研修医１年目の鱧永恵（はぶながけい）と申します。音楽理論が好きで、医師としての仕事と並行して作曲などできたらいいなと思っています。

初めまして。釧路赤十字病院研修医１年目の鱧永恵（はぶながけい）と申します。今春、慶應義塾大学医学部を卒業しました。

私は２歳まで大阪、３歳は北海道恵庭市、４歳は和歌山で過ごし、５歳から浪人までは大阪、大学１年は横浜、残り５年は東京で生活してきました。こうして振り返ると、人生の大半を都会で過ごしてきたことになります。そんな私が初期研修の場として選んだのは、北海道の釧路でした。

「なぜ釧路なの？」

研修が始まってからも何度か聞かれました。

きっかけは３歳のころ恵庭に住んでおり、そこから北海道が好きになったことです。道外に引っ越してからも毎年のように北海道に家族旅行で訪れていました。雄大な自然、おいしい食べ物、ゆったりと流れる時間、旅行で訪れるたびに「いつか北海道で暮らしてみたい」と漠然と思うようになりました。

初期研修先を考える時期になり、研修をするなら北海道という気持ちは自然と固まりました。その中でも釧路は、夏でも涼しく過ごしやすいこと、北海道の中では比較的雪が少ないことにも魅力を感じ、第一志望は釧路赤十字病院で、一本で提出しました。今思えばなかなか思い切った選択だったかもしれませんが、ご縁があり、現在この地で充実した研修生活を送っています。

実際に暮らしてみると、旅行では気づかなかったことがたくさんありました。

まず驚いたのは、人との距離の近さです。病院でも街でも、皆さん本当に気さくで温かく接してくださいます。初めての土地で生活する不安もありましたが、多くの方に支えていただき、安心して新生活を始めることができました。

そして個人的に感動したのは、路上駐車がほとんどないことです。大阪や東京では、一番左の車線は路上駐車で埋まっていることも珍しくなく、「左車線は実質一車線減っているもの」と思っていました。しかし釧路では左車線がちゃんと左車線として使われています。道幅も広く、運転のしやすさに驚きました。運転には十分注意しながら、釧路での生活を楽しんでいます。

休日には、研修医の同期や薬剤師の友人と阿寒湖や摩周湖、知床方面へ出かけて自然を身近に感じたり、帯広まで行ってばんえい競馬を楽しんだりすることが日々のリフレッシュにつながっています。車を走らせるとすぐに大自然を感じることができます。自然を眺めることが好きな自分にとっては最高の環境です。

一方で、やはり釧路の気候は侮れません。６月頃までコートを着る日があり、「本当にもう初夏なのだろうか」と思ったことを覚えています。夏らしさをそれほど感じないまま冬に突入するのだろうかと思うと驚きです。また、日の出の時間がとても早いので遮光カーテンは必須です。遮光カーテンを買う前は朝の３時台に目が覚めることがよくありました。でも気になる点はこのくらいです。

研修についても、釧路ならではの魅力を日々感じています。

内科をローテートしている現在は、研修医でありながら週５日外来を担当しています。もちろん指導医の先生方に支えていただきながらですが、実際に患者さんを診察し、自分で考え、相談しながら診療を進める経験は非常に貴重であり、都心の大規模病院ではなかなか経験できない環境ではないかと感じています。

また、自宅から100km以上離れた場所から通院されている患者さんも少なくありません。そのため、検査や治療の進め方にも地域性を踏まえた工夫が必要であり、地域医療の奥深さを日々実感しています。釧路という町が道東の中核都市として広い医療圏を支えていることを、日々の診療の中で学んでいます。北海道の広さを、地図ではなく患者さんの生活から学ぶ毎日です。

さらに、研修医の人数が比較的少ないこともあり、一人ひとりが多くの経験を積むことができます。やってみたいことを相談すると快く挑戦させていただける雰囲気があり、釧路市内の病院同士の連携も強いため、自施設にない診療科でも柔軟に研修できる環境が整っています。こうした自由度の高さは、釧路で研修する大きな魅力の一つだと思います。

まだ始まったばかりの研修生活ですが、これからもこの恵まれた環境で多くのことを学び、少しでも地域医療に貢献できる医師へと成長していきたいと思います。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。